

## JR小田原駅東口に 「ミナカ小田原」が開業

昨年12月4日、JR小田原駅東口のお城通り地区に、新たな「暮らしにぎわい拠点」として「ミナカ小田原」が開業しました。この場所は、旧国鉄貨物駅の跡地で1984年に小田原市土地開発公社が取得し再開発が構想されてきました。一旦は開発事業者が選定されましたが、この事業者が2008年に民事再生を申し立てたため計画は宙に浮いていました。改めて2016年に広域交流施設ゾーン整備実施方針が策定され、公募により新たな事業実施者が選定されて、今回の開発が進められました。

「ミナカ小田原」という名称の「みなか」とは「真ん中（中心）」という意味の古語で、万葉集の中では霊峰・富士山を示す言葉としても使われています。未来の小田原で多くの人が出会い、行き交い、賑わう中心として愛されるようにとの願いが込められています。

この「ミナカ小田原」は、地上14階、地下1階の「タワー棟」と4階建の「小田原新城下町」の2つの施設から構成されている複合型商業施設です。

「タワー棟」は、6階に小田原駅東口図書館や子育て支援センター、9階にハローワークなどの公共施設があるほか、3階には「西湘フードスタジアム」、4階にはコンベンションホール、7、8階にはクリニックや検診医療施設、10階から13階にはホテルがあります。14階にはレストランや展望広場、無料の足湯も設けられています。

「小田原新城下町」は在りし日の小田原宿をイメージした江戸情緒薫る木造の施設で、1階から3階には小田原や西湘の一品や土産物を扱う店舗が入居し、4階には和風客室の「旅籠」が設けられています。

「タワー棟」との間の3階部分には「金次郎広場」が設けられていて、JR小田原駅に接続しています。郷土の偉人である二宮金次郎（尊徳）にちなんで命名された広場で、2019年に公開された映画「二宮金次

郎」の夫婦像が設置されています。この広場では賑わいの創出を目指して多彩なイベントの開催が予定されています。

小田原は、かつては東海道有数の宿場町として栄え、丹那トンネルの完成で東海道本線が小田原から沼津まで開通してからは、交通の結節点として駅周辺が商業活動の中心となりました。高度経済成長期には百貨店などの大型店が相次いで出店し、神奈川県西部を商圈とする一大商業地として発展してきました。しかし、1990年代に入り鴨宮駅周辺や近隣の市町に郊外型大型商業施設が相次いで出店したことなどにより、駅周辺の商店街は求心力が落ち、繁華街の顔であった百貨店の撤退が続きました。

本格的な人口の減少時代に入り、小田原市も2000年以降減少に転じています。小田原市に限らず全国各地で繁華街に立地していた百貨店などの大型商業施設が相次いで撤退する事例が増えており、地方都市の中心市街地の空洞化が課題となっています。小田原市民や地元関係者からは、地域活性化に向けた新たな賑わいの拠点として、「ミナカ小田原」に期待が寄せられています。



人出で賑わう「金次郎広場」